

評価結果概要表

作成日 平成 22 年 3 月 11 日

【評価実施概要】

事業所番号	秋田県知事指定第 0572308013号
法人名	ユウゲンガイシャ 有限会社 すずめだて
事業所名	グループホームすずめだて
所在地	五城目町高崎字雀館下川原88-5 (電話) 018-855-1550
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
所在地	秋田市旭北栄町1-5
訪問調査日	平成22年2月4日

【情報提供票より】 (平成22年1月12日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 15 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 (常勤 9 人 非常勤 7 人 常勤換算)

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	□有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	□有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	□有 / □無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,050 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	2 名	要介護2	8 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81.3 歳	最低 71 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	千葉内科医院、わしや歯科、湖東総合病院
---------	---------------------

【外部評価で確認された事業所の特徴】

穏やかな日常と心安らぐ環境作りを心がけ、入居者一人ひとりが生き生きと自分らしく生活を送れるよう支援することを開設当初から理念に掲げている。
センター方式による利用者のアセスメントを年2回行い、家族会を設置して利用者及び家族の意向把握に努め、管理者及び職員が利用者の笑顔を最優先に考えてケアにあたっている。
また、昨年度から認知症対応型のデイサービスを併設し、地域のニーズに応えられるよう多機能性を持ち、協力医の「在宅時医学総合管理」により訪問診療など医療面での支援も充実させている。
事業所の敷地が広く、夏祭りなどで地域住民との交流の機会づくりに努めていることから、今後は利用者の見守りや緊急災害時の協力・支援体制の構築に向けて積極的に働きかけるなど、地域の福祉拠点として地域と連携したサービス提供体制の確保にも努めてほしい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	「在宅時総合医学管理料」の明細書を発行して家族の理解を求めているほか、他事業所との訪問交流や管理栄養士による定期的なチェックなど、前回評価結果を受けて改善につなげている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が評価の意義を理解しており、職員が評価項目を分担して自己評価を行い、その結果を持ち寄り職員間で検討のうえまとめている。 また、前回評価結果を基に改善計画を立て、優先的に取り組むべき課題について改善につなげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	外部評価結果や家族の要望などから課題として提起し、管理栄養士による栄養点検や献立内容の掲示など、討議内容から具体的な取り組みや改善につなげている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱や面会時の会話のほか、家族会を活用して意見や要望の把握に努めており、家族からの要望でその日の献立内容をメニューボードで掲示するなど取り組みに反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	畑づくりや縄ない、恵方巻きや豆まきなど季節の行事毎にボランティアの協力を得ており、事業所の夏祭りやクリスマス会、避難訓練などに近隣住民の参加を呼びかけているほか、町主催の民謡や踊り、朝市などにも出かけて交流している。

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
I. 理念に基づく運営								
1. 理念と共有								
1	1	○地域密着型サービスとしての理念	すずめだて理念 「穏やかな日常と心安らぐ環境作りを心がけ入居者一人ひとりが生き生きと自分らしく生活を遅れるよう支援します」			開設時からの理念「穏やかな日常と心安らぐ環境作りを心がけ入居者一人ひとりが生き生きと自分らしく生活を遅れるよう支援します」を掲げているが、前回評価結果を受けて地域密着型サービスとしての理念の見直しを考えている。	○	職員が日常の取り組み姿勢をやさしい言葉で表現し、わかりやすい理念に作り変えたいと意欲的であるため、この機会に職員間で話し合う場をつくり、理念の再構築に向けて取り組んでほしい。
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	すずめだて理念 「穏やかな日常と心安らぐ環境作りを心がけ入居者一人ひとりが生き生きと自分らしく生活を遅れるよう支援します」					
2	2	○理念の共有と日々の取り組み	理念をホームの見やすい所に明示し、すべての職員がホームの理念を述べることができ、実現により組んでいる。			玄関や事務所、食堂や台所など日常的に目につく場所に理念を掲示し、職員間のミーティングでも確認しながら理念の共有に努めている。		
		運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホームの見やすい所に明示し、すべての職員がホームの理念を述べることができ、実現に取り組んでいる					
3	3	○家族や地域への理念の浸透	ホームの見やすい所に掲示し、かつ家族に説明している。			地域への浸透が充分でない		
		事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	説明文書及び契約書にわかりやすく明示し、かつ家族等に説明している。	○				
2. 地域との支えあい								
4	4	○隣近所とのつきあい	散歩時、外出時お互いに声がけするようになり、近所の人も散歩中に立ち寄りしたりしている			町内会にも加入し、夏祭りやクリスマス会など事業所の行事に近隣住民を招待したり、近隣体育館や公民館で行われる行政主催の民謡や踊り、朝市などに出かけて交流を図っている。 また、婦人会や老人クラブなどのボランティアの訪問が年々増えてきており、恵方巻きや豆まき、縄ないなど季節毎の行事にも協力を得ている。		
		管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時、外出時お互いに声がけするようになり、近所の人も散歩中に立ち寄りしたりしている					
3	5	○地域とのつきあい	地域のまつり、事業所のまつりなど行事に参加し、交流に努めている			町内会にも加入し、夏祭りやクリスマス会など事業所の行事に近隣住民を招待したり、近隣体育館や公民館で行われる行政主催の民謡や踊り、朝市などに出かけて交流を図っている。 また、婦人会や老人クラブなどのボランティアの訪問が年々増えてきており、恵方巻きや豆まき、縄ないなど季節毎の行事にも協力を得ている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のまつり、事業所のまつりなど行事に参加し、交流に努めている					
6	6	○事業所の力を活かした地域貢献	地域の各委員の訪問などを受入れお互いに役立つ情報交換を行っている。			地域の高齢者との交流に力を入れたい		
		利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		○				

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
3. 理念を実践するための制度の理解と活用								
4	7	○評価の意義の理解と活用	ホーム全体で自己評価に向けて取り組み理解に努めている			職員の経験等に応じて評価項目を分担して自己評価を行い、その結果を全体で話し合いのうえまとめている。 また、前回の外部評価結果を基に改善計画を立て、優先的に取り組むべき事項について改善につなげている。	○	評価項目を分担して行うことで、職員個々の主観が反映される場合もあるため、できる限り職員一人ひとりが評価項目全体に取り組むなど、より客観的な視点で自己評価に取り組んでほしい。
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム全体で自己評価に向けて取り組み理解に努めている					
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み	運営推進委員へのサービス、ケアについて報告し助言をいただき、サービス向上に活かしている			前回評価結果を受け、委員の時間的負担に配慮した効率的な開催方法を工夫し、運営状況や評価結果について書面で意見を求めている。 また、駐在所の警察官に普段の見守りや運営推進会議への参画など協力を要請し、会議の充実に向けて取り組んでいる。	○	運営推進会議の方法を工夫しているが、あまり意見が得られず十分に機能していないため、運営推進会議の開催日や時間帯を工夫したり、他事業所の会議状況を見学して参考にするなど、定期的開催しながらサービスの向上につなげてほしい。
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員へのサービス、ケアについて報告し助言をいただき、サービス向上に活かしている					
6	9	○市町村との連携	不明な点など市町村担当者に相談し、助言をいただいている。ホームの行事への参加を呼びかけ会議以外での交流に努めている。	○		生活保護受給や権利擁護事業を利用している方がいるため、普段から行政担当者や関係機関と連携しながら支援している。 また、事業所の広報を行政にも送付し、事業所の情報提供に努めている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	不明な点など市町村担当者に相談し助言をいただいている	○	運営推進委員のかたの会議参加が少なく、会議以外でも交流がないため課題として取り組む			
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用	現在2名の入居者が制度を利用している。	○	職員への浸透がまだ浅い為今後の学習会などを予定している。			
		管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している		○	権利擁護に関する学習会は設けたことがなく取り組んでいきたい			
11		○虐待の防止の徹底	身体拘束、虐待防止のマニュアルを作成している。事例などの意見交換をしたり感想を提出し防止に努めている。					
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待防止のマニュアルを作成している。又、昨年はホームの取り組みとして虐待防止の勉強会を行った。	○	この後も虐待のないように注意を払い防止に努めていく。職員の周知に力を入れる			
4. 理念を実践するための体制								
12		○契約に関する説明と納得	入所時に重要事項説明書、運営規定などで十分な説明をし家族からも十分目を通していただき疑問点などを出してもらい説明して同意をもらっている					
		契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に重要事項説明書、運営規定などで十分な説明をし家族からも十分目を通していただき疑問点などを出してもらい説明して同意をもらっている					

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に機会としては設けていないが、利用者が都度訴えかけてくる						
		特に機会としては設けていないが、利用者が都度訴えかけてくる	○	訴えることが出来ない利用者のために方法を考えたい				
7 14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や、便りなどで報告をしている。又、在宅医療に関わる負担金の明細も家族が理解できるような明細書にした。			3か月毎に「すずめだて便り」を発行し、事業所の行事など全体の状況を報告している。また、家族の面会時や電話などで利用者一人ひとりの生活の様子を伝え、遠方の家族には手紙や写真等で知らせている。			
		面会時や、便りなどで随時報告をしている。また、在宅医療に関わる負担金の明細も家族が理解できるようなものにした。						
8 15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満、苦情を書いてもらう設定はしてあるが、家族が記入したときがない。面会時など話し合いをしている			意見箱を設置し、面会時などに家族との話し合いから意見や要望を把握するよう努めている、また、前回評価結果を受けて家族会を通じた意見集約にも取り組んでいる。	○	家族会に求めていることを家族が十分に理解していないため、家族会の目的を引き続き説明し、徐々に理解を深めながら会を充実させ、意見の集約からサービスの向上につなげてほしい。	
		不満、苦情を書いてもらう設定はしてあるが、家族が記入したときがない。面会時など話し合いをしている						
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議時、職員の意見、提案を出してもらい話し合いをしている。						
		運営に関する職員の意見を聞く機会には特に設けてはいないが、業務の中で話し合いはある						
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	緊急時、または必要なときは職員の確保に努め、勤務体制を整えている						
		緊急時、または必要なときは職員の確保に努め、勤務体制を整えている						
9 18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当初からの職員が勤務しており離職した職員と馴れが深かった入居者へは職員全体でカバーにあっている			利用者の担当制により1年毎に担当を変えているが、普段から全職員で関わっているため、異動や退職時でも混乱や不安はみられない。また、新任職員には勤務シフトに応じて現任職員が付き添い、早く慣れるよう配慮している。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価			
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	
5. 人材の育成と支援									
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加し復命書を書いてもらい他職員にも伝えている。 研修に参加させている				○	年1回は外部研修へ参加できるよう職員の希望を反映させており、研修の成果を職員会議で報告して全体で共有している。 また、職員の資質向上に対する意識が高く、資格取得に向けて勤務体制など配慮している。	職員一人ひとりの目標を設定し、経験や能力等に応じて必要な知識や技術を明らかにしたうえで研修計画を立て、計画的かつ段階的にスキルアップできる仕組みを検討してほしい。 また、歯科医の協力を得ながら口腔ケアなどテーマ毎に内部研修を取り入れ、職員の質の向上と職場内研修の充実に取り組んでほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に入会し、ネットワーク作りや勉強会などを行っている。また懇親会なども参加し、職員交流も行っている。 同業者との懇親会、勉強会などの機会には参加し、相互の問題などを出し合い、また職員交流も行っている					県及び圏域の連絡協議会に加入し、勉強会などでケアやレクリエーションなどの実践について情報交換している。 また、他事業所との交換研修も行い、職員が互いに事業所を訪問して実践を学び、ケアに生かしている。	
	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員相互が気兼ねなく話し合える場面や親睦会など気晴らしの機会を作っている 職員相互が気兼ねなく話し合える場面や親睦会など気晴らしの機会を作っている						
	22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の努力や、実績を素直に認め日常の会話や会議などで話している 職員の努力や、実績を素直に認め日常の会話や会議などで話している		○	職員個々と今以上に話し合う機会を作る			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援									
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応									
	23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者からの希望、要望があった場合話をよく聞き対応している。 信頼関係を保てるよう、声かけしコミュニケーションをとり、傾聴しありのままを受け止めている						
	24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が悩みや不安を気軽に話せる機会を作り傾聴し、理解している 悩みや不安を気軽に話せる機会を作り傾聴し、理解している						

外部評価	自己評価	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族と向き合い求めていることを理解し、サービスに努めている						
		利用者、家族と向き合い求めていることを理解し、サービスに努めている						
12 26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族の希望、要望を受け入れ自然に寄り添い、コミュニケーションをとり安心できるよう努めている			事前に家族と面会し、介護支援専門員が自宅や病院を訪問して面談した後、事業所の見学などで雰囲気を体感してもらい、納得したうえで利用につなげている。			
		利用者、家族の希望、要望を受け入れ自然に寄り添い、コミュニケーションをとり安心できるよう努めている						
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援								
13 27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として敬い、日常生活の中から学び取っている。おやつ、食事時に一緒に食べながら談話をしコミュニケーションを取っている。			豆腐の作り方や縄ないの仕方、荷作りテープを使用した籠作りのほか、畑づくりや裁縫など利用者の知識や経験を職員が学ぶ機会をつくり、支え合いながら生活している。			
		人生の先輩として敬い、日常生活の中から学び取っている	○	利用者と一緒に過ごせる時間を今以上に持ちたい				
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に家族の困りごとや入居者の心情をなるべく聞き取るように心がけるようにしている。又、支援に必要な昔の話を家族から聞き取り情報を共有している。	○	遠方であったり、面会に来れない家族もいるので、家族、本人の繋がりを保てるような方法を考えたい。家族会の開催も全員とは行かず違った方法を考えたい。				
		家族の方に現状の状況を説明し家族の意見を聞き、どのように援助したら本人が一番よいのかを一緒に考えるようにしている。	○	遠方であったり、面会に来れない家族もいるので、家族、本人の繋がりを保てるような方法を考えたい。				
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時はゆっくりと過ごせるような場を提供するよう心がけている。また本人の生活の様子を丁寧に話し理解して頂いている。						
		面会時はゆっくりと過ごせるような場を提供するよう心がけている。また本人の生活の様子を丁寧に話し理解して頂いている。						
30	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の昔なじみの床屋、商店などを現在も利用している。						
		利用者の昔なじみの床屋、商店などを現在も利用している。						

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
	31	○利用者同士の関係の支援	身体の不自由な入居者には、健康な人が手助けができるよう、また、孤立しがちな入居者には、職員が間に入り交流できる機会をつくっている。					
		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	身体の不自由な入居者には、健康な人が手助けができるよう、また、孤立しがちな入居者には、職員が間に入り交流できる機会をつくっている。					
	32	○関係を断ち切らない取り組み	退去者の情報提供などの要請があれば随時応じている。					
		サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された方のご家族とはいつでも気軽に立ち寄ってもらえるように接している。	○	情報提供などに今後もつとめて行きたい。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
1. 一人ひとりの把握								
14	33	○思いや意向の把握	食事好みを把握し、バランスに考慮したメニューや味付けにしている。また、居室でゆっくりしたい方、外出要望のある方など、本人の意向をできるだけ尊重している。			新たにセンター方式の様式を活用し、年2回のアセスメントに力を入れて利用者の情報収集に努めている。 また、思いを表出できない方には利用者の言動などから思いを感じ取るよう努めている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事に関しては、バランスを考慮しながら好みに合わせたメニューや味付けをしている。また、居室でゆっくりしたい方、外出要望のある方など、本人の意向をできるだけ尊重している。					
	34	○これまでの暮らしの把握	本人との会話や家族などを通して、以前好きだった事や経験を引き出し、支援の方法を考えている。					
		一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族などを通して、以前好きだった事や経験を引き出し、支援の方法を考えている。	○	バックグラウンドアセスメントを取り入れて支援につなげていきたい。			
	35	○暮らしの現状の把握	日によって変化する入居者の体調や変化を、バイタル測定や状況観察により把握し、生活の流れを本人に合わせるようにしている。					
		一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日によって変化する入居者の体調や変化を、バイタル測定や状況観察により把握し、生活の流れを本人に合わせるようにしている。個人ノートに利用者のちょっとした事などを記入し、ケアにつなげている。	○	面会時など、家族に聞き取りを行い、さらに情報収集を行いケアにつなげていきたい。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し								
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	課題を解決するため、月1一回、全職員が集まりカンファレンスを行っている。一人ひとりのケースについての見直しや新しい課題について話し合い計画に反映させている。			センター方式のアセスメントに基づき、担当職員による気づきなど全職員から利用者のニーズを把握し、毎月のケアカンファレンスで検討しながら介護計画に反映させている。 また、見直しの必要がない場合でも目標の継続についてケアカンファレンスで確認、共有している。		
			課題を解決するため、月1一回、全職員が集まりカンファレンスを行っている。一人ひとりのケースについての見直しや新しい課題について話し合い計画に反映させている。					
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個々の状態変化に応じ随時、または定期的にカンファレンスを行い見直ししている。適時、サービス担当者会議を行っている。			毎月のモニタリングで職員の意見を求め、3か月毎に見直しているほか、利用者の状態変化などに応じて随時の見直しにつなげている。	○	毎月のモニタリングでの継続課題が改善につながっていないケースがあるため、ケアカンファレンスでの具体策の検討やモニタリング様式の工夫など、利用者の自立に向けた支援につなげてほしい。
			個々の状態変化に応じ随時、または定期的にカンファレンスを行い見直ししている。適時、サービス担当者会議を行っている。					
	38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケースファイルがあり、日常や変化を詳しく記入している。それを基にカンファレンスを行って計画を見直している。					
			毎日、ケアプランの項目に沿って評価を行っている。カンファレンスでは、月評価の達成度について問題点を話し合うことにしている。					
3. 多機能性を活かした柔軟な支援								
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通所介護サービスを開設し、ホーム以外の利用者を抱える事で入居者の刺激のつながるような対応をするように心がけている。また、通所の迎えや送りを入居者と一緒に行っている。			認知症対応型の通所介護を併設し、地域や利用者、家族からの要望があれば直ぐに対応できる体制を整えている。 また、家族の希望により通院介助を行い、看護師による医療連携体制も確保している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働								
	40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	年に二、三回の消防訓練を行い、地域の住民の参加を呼びかけている。又、地域のボランティアの方々との交流を定期的に行っている。			地域の方がたがもっと気軽に立ち寄れるようなホームづくりをしていきたい。	○	
			年に二回の消防訓練を行い、地域の住民の参加を呼びかけている。又、地域のボランティア（民謡同好会など）の方々との交流を定期的に行っている。					
	41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の連絡会が発足され定期的に情報交換をしている。					
			福祉用具などの情報交換をしている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
42	○地域包括支援センターとの協働	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は事業所の状況などを報告に行っている。					
			現在は事業所の状況などを報告に行っている。	○	今後も不明な点などの情報を頂きたい。			
18 43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域のかかりつけ医より月2回往診してもらっている。かかりつけ歯科医とは緊急時すぐ連絡を取り往診してもらっている。内服薬の処方日にはかかりつけ薬局より内服薬を届けてもらいコミュニケーションをとっている			利用者のかかりつけ医が地域の協力医となっており、定期受診や「在宅時総合医学管理料」による月2回の訪問診療のほか、緊急時や夜間にはメールでのやり取りで指示を受けながら迅速に対応している。 また、近所の協力歯科医から口腔ケアに関する指導の協力を得ている。	○	「在宅時総合医学管理料」による訪問診療が必要になった時点で、必要性や内容を書面で家族に説明のうえ同意を得るほか、契約書や重要事項説明書にも記載し、家族への丁寧な説明に努めてほしい。
			地域のかかりつけ医より月2回往診してもらっている。かかりつけ歯科医とは緊急時すぐ連絡を取り往診してもらっている。内服薬の処方日にはかかりつけ薬局より内服薬を届けてもらいコミュニケーションをとっている					
44	○認知症の専門医等の受診支援	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医でカバーできない認知症の分野は専門医に定期、臨時受診している。家族、介護職員が都度状況にあわせて報告、相談に行く事もある。					
			全員ではないが、認知症専門医の診察、相談を定期的に行っている。					
45	○看護職との協働	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	居宅療養管理指導を行っている。健康管理などの情報提供をしてもらっている。					
			緊急時には訪問してもらい医療活用の支援を受けている					
46	○早期退院に向けた医療機関との協働	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院中は、職員が病を訪れ情報交換、話し合い協力を得ている					
			利用者が入院中は、職員が病院を訪れ情報交換、話し合い協力を得ている					
19 47	○重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については本人、家族の意思を尊重し、かかりつけ医と話し合い、方針を共有している			現時点では事業所での看取りが困難な体制であるため、重度化した場合は医療機関で対応することを利用契約時に説明している。	○	重要事項説明書とは別に重度化した場合の対応指針や同意書を明確にし、契約時に説明のとともに利用者及び家族との方針の共有に努めてほしい。
			重度化した場合や終末期のあり方については本人、家族の意思を尊重し、かかりつけ医と話し合い、方針を共有している					

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日々の業務の中で職員間で情報交換をして利用者が日々をより良く暮らせるよう取り組んでいる。状態の変化があった場合にはすぐにかかりつけ医に連絡を取り、連携を図っている。また、日々の変化を見逃さないように月1回カンファレンスを行っている。						
		日々の業務の中で職員間で情報交換をして利用者が日々をより良く暮らせるよう取り組んでいる。状態の変化があった場合にはすぐにかかりつけ医に連絡を取り、連携を図っている。また、日々の変化を見逃さないように月1回カンファレンスを行っている。						
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人及び家族に関わるケア関係者に情報提供を行い、ダメージを防ぐことに努めている						
		本人及び家族に関わるケア関係者に情報提供を行い、ダメージを防ぐことに努めている						
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
1. その人らしい暮らしの支援								
(1) 一人ひとりの尊重								
20	50	○プライバシーの確保の徹底	認知症に伴う、生活上の失敗や間違いがあってもプライバシーに配慮した声かけや対応をしている。また、個人情報の取り扱い、慎重に行っている。			利用者の意向に沿うよう穏やかに接しており、排泄時でも「トイレ」の言葉を発することなく、雰囲気や伝えながら誘導している。 また、個人ファイルは事務所内の書庫に保管のうえ施錠管理しているほか、前回評価で課題としていた広報掲載用の写真についても同意を得ている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	認知症に伴う、生活上の失敗や間違いがあってもプライバシーに配慮した声かけや対応をしている。また、個人情報の取り扱い、慎重に行っている。					
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いや希望を普段の会話から聞きだしている			○ 意思表示できない利用者にも配慮していきたい			
		本人の思いや希望を普段の会話から聞きだしている						
21	52	○日々のその人らしい暮らし	入居者が好む事を把握して要望を取り入れている。		○ 希望にそった支援ができていない。時間の調整や業務内容の見直しをして、利用者の希望にそえるようにしたい	利用者の問いかけに対し直ぐに応えられない場面もあると感じているが、起床時間に合わせて食事を摂るなど、利用者の生活リズムに沿うよう支援している。 また、塗り絵の好きな方に種類を増やしたり、帰宅願望のある方には一時的に帰宅して落ち着いてもらうなど配慮している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	月の行事や往診などは時間が決まっているが、それ以外はその人のペースに合わせてできるだけ希望にそって援助している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援								
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理、美容院の利用は本人が望む店を利用している						
		理、美容院の利用は本人が望む店を利用している						
22 54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを聞きメニュー作り。水分にはトロミをつける。きざみ食をして入居者がむせないようにする。声掛けにて入居者が自分から手伝ってくれる事も多々あり。			季節の食材や食べたい物があれば朝市で買い物するなど献立に反映させており、利用者と共に調理している。 また、正月などのバイキングメニュー、出前、メニューボード設置のほか、咀嚼や嚥下状態を踏まえて調理方法を工夫するなど、食事を楽しめるよう努めている。			
		入居者の好みを聞きメニューを作っている。摂食障害のある方には、その状態にあわせ食事形態を考えている。声掛けにて入居者が自分から手伝ってくれる事も多々あり。						
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ時、飲み物の希望があると対応する。歯の無い入居者には柔らかく食べやすいものを提供する。						
		おやつ時、飲み物の希望があると対応する。又、本人の希望などで、昔のなじみの味の食べ物を家族の協力で提供してもらっている。						
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	適度のトイレ誘導、入居者の訴えがあった場合スムーズに誘導する。失禁などの場合、リパッドやパットの交換、清拭を行う。						
		オムツ、パットなどの利用を限界まで使用しないことを目標にし、排泄記録や利用者のパターンから、自然に排泄していけるように支援している。						
23 57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1人での入浴が出来ない入居者には、職員1～2人での介助を行い。1人で入浴出来る入居者には、適度の声掛けおして様子を確認する。			週2回の入浴を基本としているが、利用者の希望に応じて随時対応できるよう努めている。 また、入浴を拒む方には声かけを工夫しながら入浴を促し、同性介助についても意思確認しながら支援している。			
		1人での入浴が出来ない入居者には、職員1～2人での介助を行い。1人で入浴出来る入居者には、適度の声掛けおして様子を確認する。						
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝前のケア(更衣、口腔ケアなど) 夜間の巡回						
		就寝前のケア(更衣、口腔ケアなど) 夜間の巡回						

外部評価	自己評価	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援								
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者に声を掛け、食後の片付け、花壇の水やり、ホーム内の掃除、洗濯物をたたむなどをお願いする			掃除や調理、洗濯物たたみなど日常生活の中で自分の役割を認識している。 また、塗り絵やパズル、裁縫などのほか、縄ないや歌を楽しめるよう支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者に声を掛け、食後の片付け、花壇の水やり、ホーム内の掃除、洗濯物をたたむなどをお願いする					
60		○お金の所持や使うことの支援	入居者がほしいものを訴えた場合、職員が買い物に行くとき、購入したり同行してもらい一緒に商品などを選んでいる。					
		職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数人の入居者が個人でお金を所持しており、職員に欲しい物を買って来てほしいとお願いする。					
25	61	○日常的な外出支援	職員の買出しの付き添い、近所への散歩をしている。			散歩や買い物、理美容室など日常的な外出のほか、季節毎のドライブや運動会、敬老会など地域行事への参加など、毎日どこかに出かけるよう努めている。 また、一時帰宅や朝市などにも出かけ、重度の方は家族の協力を得ながら外出を支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の買出しの付き添い、近所への散歩、花壇への水やり。					
62		○普段行けない場所への外出支援	家への外泊、家族との旅行、レクリエーションでの遠出。					
		一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家への外泊、家族との旅行、レクリエーションでの遠出。					
63		○電話や手紙の支援	入居者から、家族に電話をしたいとの訴えはあまり聞かれず。					
		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から、家族に電話をしたいとの訴えはあまり聞かれていないが、相手からの電話には応じている。					
64		○家族や馴染みの人の訪問支援	休日には家族の面会も多く、入居者も楽しみにしている人も多い。特にお孫さん会えるのを楽しみにしている。					
		家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	休日には家族の面会も多く、入居者も楽しみにしている人も多い。特にお孫さん会えるのを楽しみにしている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
(4) 安心と安全を支える支援								
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体の拘束は行わずケアをしている。						
		身体の拘束は行わずケアをしている。						
26 66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	現在の入居者の状態が玄関の報知器で対応できる状況であるため鍵はかけていない。			玄関には鍵をかけず、センサーを設置して開放し、職員が注意深く見守りながら利用者の安全確保に努めている。 出歩きたい方は隣接ユニットに連れて行って気を紛らわせるなど対応している。	○	前回評価結果で地域での見守りを課題としており、駐在所へ見守りの協力を依頼しているが、今後は町内会などでも事業所への理解と協力を働きかけ、地域と連携した見守り体制の確保に努めてほしい。	
		居室、玄関には鍵をかけないようにしている。利用者が外に出ようとした場合には、職員が声かけし、一緒に外へでたり、納得のしてもらうよう努めている						
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の人格を尊重し、プライバシーを損ねないよう、昼夜通して所在を確認し、安全を確保している	○	歩行不安定な利用者がどうすれば安定した歩行ができるか、考えて行きたい。				
		利用者の人格を尊重し、プライバシーを損ねないよう、昼夜通して所在を確認し、安全を確保している	○	歩行不安定な利用者がどうすれば安定した歩行ができるか、考えて行きたい。				
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物（薬、洗剤、消毒液、刃物など）は決められた場所に保管し、管理している	○					
		危険な物（薬、洗剤、消毒液、刃物など）は決められた場所に保管し、管理している						
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	歩行不安定な利用者には、職員二人で介助するようにし、転倒を防いでいる。利用者と一緒に食事をとり、窒息、誤嚥が状態を把握している。ムセがある利用者にはとろみをつけたものを提供している。						
		歩行不安定な利用者には、職員二人で介助するようにし、転倒を防いでいる。利用者と一緒に食事をとり、窒息、誤嚥の状態を把握している。ムセがある利用者にはとろみをつけたものを提供している。						
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	職員全員が救急救命講習を修了しており応急手当ができる	○	初期対応の実践訓練を定期的には行っていない				
		職員全員が救急救命講習を修了しており応急手当ができる。急変や事故発生時のマニュアルを見やすい場所に設置している。						

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回火災訓練を行い避難できるようにしている			消防計画に基づき年2回の避難訓練を実施し、全職員が救急法の研修を受講して職員の自信を深めている。 また、火災通報装置や警備会社直通の警報装置などを設置し、緊急災害時に備えている。	○	前回評価結果を受けて近隣住民の参加を呼びかけているが、日程調整が難しく参加が得られていないため、今後は町内会を通じて協力を要請し、開催日や時間帯を工夫するなど、地域と連携した取り組みにつなげてほしい。
			年2回火災訓練を行い避難できるようにしている					
	72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	それぞれの家族には説明していないが、面会時に質問された場合、リスクがあることを話している。					
			面会時、担当者会議時に日常の生活を報告し、リスクが起これることを話し、一緒に対策などを考えるようにしている。					
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援								
	73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	心身の変化や異常発生時、医師、医療機関との連携が取れておりすばやい対応ができる。					
			心身の変化や異常発生時、医師、医療機関との連携が取れておりすばやい対応ができる。					
	74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が一人ひとりの服用している薬を理解し、飲み間違いのないように努めている。身体に変化が見られる場合、主治医に連絡を取り解決をしている。					
			職員全員が一人ひとりの服用している薬を理解し、飲み間違いのないように努めている。身体に変化が見られる場合、主治医に連絡を取り解決をしている。					
	75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、乳製品を摂取させたり、ラジオ体操を行い身体を動かし、便秘をさせないように努めている。便秘が何日か続いた場合は医師の処方に従う					
			毎日、乳製品を摂取させたり、ラジオ体操を行い身体を動かし、便秘をさせないように努めている。便秘が何日か続いた場合は処方に従う					
	76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアができる利用者は見守りで、自分でできない利用者には職員が口腔ケアを介助し、清潔を保持している。					
			口腔ケアができる利用者は見守りで、自分でできない利用者には職員が口腔ケアを介助し、清潔を保持している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援	季節に合わせて、メニューを作り、栄養バランスを考えており、毎日食べる量、水分量をチェックし、一人ひとりの状態を把握している。			毎日のバイタルや薬の服用、水分・食事摂取量や排尿排便などを把握し、栄養バランスの保持に努めている。 また、前回評価結果を受けて利用者の家族である管理栄養士の方に協力を依頼し、栄養カロリー計算などボランティアでアドバイスを受けている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節に合わせて、メニューを作り、栄養バランスを考えており、毎日食べる量、水分量をチェックし、一人ひとりの状態を把握している。利用者の家族でもある栄養士に定期的に献立をチェックしてもらい指示を仰いでいる。					
	78	○感染症予防	消毒や手洗いの敢行。入居者、職員は毎度インフルエンザの予防接種をうけている。家族の面会時での消毒、マスクの装着をお願いしている。おう吐時や下痢の時の対応の仕方を職員全員が周知している。					
		感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	消毒や手洗いの敢行。入居者、職員は毎度インフルエンザの予防接種をうけている。また、衛生管理委員会を立ち上げ衛生に関する情報や対策などを職員に呼びかけている。					
	79	○食材の管理	週2度、食器の煮沸を行い、衛生管理に気配りしている。					
		食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週2度、食器の煮沸を行い、衛生管理に気配りしている。購入した食品はすぐ使い切るようにしている。					
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり								
(1)居心地のよい環境づくり								
	80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫	広いスペースを確保し駐車場にはようこそすずめだての看板を設置。玄関にはプランターを飾ったり、季節に合わせたディスプレイをしている。					
		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門などが無いため、近所の子供が敷地内で自由に遊んだり開放的である。	○	砂利道が広範囲であり、歩行時は見守りがさらに必要である。			
29	81	○居心地のよい共用空間づくり	玄関には四季折々の花々を飾り、ホールには季節感のある入居者の作品を展示している。			共用空間にソファを設置し、花や干支の絵などの装飾により、明るい雰囲気を持している。 また、インフルエンザ対策として大型空気清浄機を設置し、感染症防止に努めている。		
		共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には四季折々の花々を飾り、ホールには季節感のある入居者の作品を展示している。					
	82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり	ホールには、ソファや1人用の椅子、数人が囲むて一ぶるが設置しており、1人1人自由に過ごせる様に工夫している。					
		共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファや1人用の椅子、数人が囲むテーブルが設置しており、1人1人自由に過ごせる様に工夫している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮	入居者が使いやすいように、家具の設置がされている			備え付けのベットやストーブのほか、仏壇や鏡台など使い慣れた家具などを置く方、趣味の作品を飾る方など、利用者一人ひとりの生活歴を受け入れて個性ある居室づくりを支援している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使いやすいように、家具の設置がされている					
	84	○換気・空調の配慮	においの気になる箇所は常に24時間換気を行い、各居室に湿度計を設置し状況に応じて対応している					
		気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	においの気になる箇所は常に24時間換気を行い、各居室に湿度計を設置し状況に応じて対応している。また空気清浄機の設置をした。					
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり								
	85	○身体機能を活かした安全な環境づくり	廊下、浴室などに手すりを設置し、歩行が不安定な利用者に利用してもらっている					
		建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや車椅子の方の高さに合わせて洗面所の鏡に傾斜を持たせるなど工夫している。					
	86	○わかる力を活かした環境づくり	ADL低下防止のため、花のみずかけ、食器拭き、調理の手伝いを行っている					
		一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	できる力に合わせて、花のみずかけ、食器拭き、調理の手伝いを行っている					
	87	○建物の外周りや空間の活用	畑や花壇作りをして、四季折々の風情を楽しんでいる		外回りの大部分が砂利の為転倒に注意しながら活用する。			
		建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑や花壇作りをして、四季折々の風情を楽しんでいる	○	身体的に自由に出入りすることが危険な方が多いので、視界に訴えるような工夫もしていきたい。			

※ は、重点項目。

項目		自己評価		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと) ①：1ユニット(1号棟) ②：2ユニット(2号棟)
		①	②	
V. サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

<p>【特に力を入れている点・アピールしたい点】 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)</p> <p>センター方式の心身の情報を活用して入居者の状態を把握し、日々のケアに活かしている。 夜間の警備体制を強化し、入居者様、夜勤者の安全を確保している。 ホーム周辺に菜の花の種をまいて、環境整備し、入居者様の目を楽しませている。 また、様々なレクリエーションを提供し一人ひとりの1日の過ごし方を有意義のあるものに努めている。</p> <p>介護に関する新聞の見出しや認知症に関わる情報を職員が自発的に集めて回覧するような形にした。 利用者の一人ひとりにあったレクリエーションを考え喜んでもらえるように職員全員が提案している。</p>
